

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	Gripキッズ両国緑校		
○保護者評価実施期間	2026年 2月 1日		～ 2025年 2月 28日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	72名	(回答者数) 38名
○従業者評価実施期間	2026年 2月 11日		～ 2026年 2月 28日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	10名	(回答者数) 6名
○事業者向け自己評価表作成日	2026年 3月 14日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	発達段階に応じ体系化された支援プログラムの実施	当事業所では、児童の発達段階および個別支援計画の目標達成を目的として、支援プログラムを体系的に構成しています。実施後には職員間で振り返りを行い、内容の改善および段階的發展を図ることで継続的な質向上に取り組んでいます。また、役割活動や協働場面を設定することで、社会性・自己効力感の育成を意図した支援を実施しています。	プログラム評価の視点を明確化し、活動記録を基にした検証プロセスを強化します。外部研修や専門情報の導入を通して支援内容の更新を図り、児童主体の活動設計をさらに推進します。
2	安心して相談できる関係を基盤とした支援環境	児童および保護者が安心して相談できる環境づくりを支援の基盤と位置づけ、日常的な対話や傾聴姿勢を職員共通の対応方針として共有しています。連絡手段についても複数の方法を活用し、相談機会の確保と心理的安全性の向上に努めています。	相談対応の記録および共有方法を整理し、対応の均質化を図ります。また、迅速かつ適切な初期対応が可能となるよう職員研修を実施し、相談支援体制の強化を進めます。
3	個別支援計画に基づく一貫性のある支援体制	日々のケース記録に個別支援計画の目標を反映させることで、実施支援と計画との整合性を確認できる仕組みを整備しています。記録内容は職員間で共有され、支援の方向性を統一することで一貫した支援提供を行っています。	定期的な支援振り返りおよび事例検討を実施し、支援評価の客観性向上を図ります。非常勤職員を含めた情報共有体制を強化し、支援品質の均一化を推進します。
4	保護者支援(ペアレント支援)の継続的実施体制	日常的な相談対応や面談を通じ、家庭環境を踏まえた助言・情報提供を行っています。保護者との継続的な関係構築を通して、家庭と事業所が連携した支援を実施しています。	外部研修の活用および職員の専門性向上を図り、ペアレントトレーニング等の体系的な支援実施に向けた準備を進めます。小規模講座や情報共有機会の段階的導入を検討します。
5	活動特性に応じた環境構成および視覚的支援の活用	基準面積を確保した上で、個別学習および集団活動の双方に対応できる環境構成を行っています。視覚的支援ツールを活用し、児童が活動の見通しを有する環境づくりを行っています。	活動内容に応じたレイアウト変更を継続的にを行い、空間活用の最適化を図ります。安全性および集中環境の両立を目的とした環境評価を定期的実施します。
6	小中高一貫支援体制の構築(中高生期支援の強化が課題)	進学時の生活変化を見据え、早期から進路や生活状況について保護者と共有し、継続支援の可能性を検討しています。	部活動・学習塾との両立を考慮した利用時間調整や通所方法の多様化を検討します。中高生向けプログラムの開発および自立支援視点の強化により継続利用の促進を図ります。
7	学校・家庭との情報共有を重視し、支援の一貫性を確保している	学校・家庭との情報共有を通して生活全体を踏まえた支援を実施しています。共有内容は職員間でも確認し、支援の継続性を確保しています。	関係機関との定期的な情報交換機会を増やし、地域連携を強化、連携内容の可視化と支援効果の検証を進めます。また、共有方法の標準化により支援の質の均一化を目指します。

8	職員同士が相談しやすく、チームとして支援を検討できる風土がある	日常的な振り返りや相談を通じて、個人対応に依存しないチーム支援を実践しています。職員間で支援意図を共有する文化形成を重視しています。東京都働きやすい福祉の職場宣言事業所として開かれた職場環境を目指しております。	内部研修や事例検討の機会を体系化し、経験年数に応じた育成体制の整備を進め、専門性の継続的向上を目指します。
---	---------------------------------	---	---

自己評価結果の活用および改善サイクルについて

当事業所では、本自己評価を単年度の振り返りに留めず、事業所運営の改善指標として位置づけています。評価結果については職員間で共有し、支援内容・環境設定・保護者支援体制等の見直しに反映しています。また、改善事項については優先度を整理した上で段階的に実施状況を確認し、次年度評価へ継続的に接続することで、支援の質の向上および運営体制の強化を図ります。

職員への周知および組織的改善

自己評価結果は全職員へ周知し、日々の支援実践に反映できるようミーティング等を通じて共有しています。職員個々の取組に依存しない組織的支援体制の構築を目指し、継続的な運営改善を行っています。